

# 地域と環境

No.15 2018.12

Region and Environment

---

山村 亜希：豊臣期遠江二俣における城下町と川湊……………	1
小島 泰雄：江門農村における開発と保護……………	19
小方 登：シチリア島・パレルモにおけるフェニキア時代の遺構について —2017年8月の調査から—……………	29
石田 曜：中国における余暇空間としての都市公園の特性 —延吉市の人民公園を事例に—……………	36
潘 藝心：中国におけるインナーシティの再考 —江蘇省無錫市を事例に—……………	50
劉 天野：旧工業地区における商業集積の形成と変容 —長春市寛城区鉄北地区を例として—……………	70
北西 諒介：千里ニュータウンにおける地名の命名とその影響……………	83
<hr/>	
博士論文要旨……………	103
修士論文要旨……………	105
研究室だより……………	109

---

# 博士論文要旨

2017年度

## 中国都市における余暇空間に 関する人文地理学的研究

石田 曜

中国では経済発展による自由時間の拡大を背景に、余暇への関心がますます高まっている。大衆消費社会へ突入して以降、レジャー産業の発展、ならびに消費行動が多様化する中で、人々の余暇をめぐる環境は大きく変化してきた。このような背景から、中国都市における人々の日常生活内での余暇の過ごし方とそれに関係する空間について、多角的に検討する必要がある。

これまで余暇については地理学や社会学、建築学などの様々な分野によって研究が進められてきた。特に、人文地理学では計量的および記述的な分析によって、余暇に関する行動や施設の圏域や分布、行動空間、経験、実践、グローバル化での位置づけを明らかにしてきた。一方で、中国を対象とした余暇空間の形成過程やそれに関する余暇活動の実践および意味に踏み込んだ研究は管見の限りほとんどないといってよい。そこで、本論文では中国東北地域の都市公園を対象として、人文地理学的視点から都市公園が余暇空間として形成される過程や余暇活動を行う主体の認識から、中国都市における余暇空間の特性を解明した。

上記の問題意識から、第1章では、余暇活動と空間に関する人文地理学や諸人文—社会科学によるアプローチを整理し、その論点を確認した上で、より具体的に本研究の問題設定を行った。

第2章では、長春市南湖公園を対象として、余暇活動の実態と空間利用を明らかにした。この中で、「運動」を来園目的とした人々が半数弱を占めたのに対し、その選定理由の多くが「風景・環境の良さ」であることから、人々が余暇活動の場として選定する際、景観が大きな役割を持っていることが明確となった。

第3章では、吉林省松原市における3つの都市

公園を事例に、その余暇空間としての特性を明らかにした。結果として、特に鏡湖公園と伯都訥(ボドナ)文化公園は、市政府による緑化やクリアランスなどの「開発」という政治的戦略の影響を強く受けていた。一方で、余暇活動を行う人々は、そのような戦略は意識しておらず、日常生活における利便性などに即して都市公園を利用していることが明らかになった。

第4章では、吉林省延辺自治州延吉市を対象に、都市公園が余暇活動に参加する人々(以下、余暇参加者)にとってどのような空間であるのかについて、都市公園の変容に着目して考察した。例として、人民公園では無料開放以降、高齢者たちは以前に単位(タンウェイ)内で行っていた余暇活動を園内に持ち込み、活動の場を創り出していることが明らかになった。都市公園は単に余暇活動の場というだけではなく、高齢者へ居場所を与える役割を果たしていた。

第5章では、瀋陽市中山公園を事例に、余暇参加者を指導者と参加者に区分し、そこに公園管理者を加えることで、合計3つの主体が余暇活動や空間をめぐり、どのような葛藤の中で、余暇の場所を構築していくのかを考察した。ここでは余暇空間をめぐって、各主体は協働しており、その総体として都市公園を捉えることができることを提示した。

最後に終章では、本論文のまとめと展望を述べ、課題を示した。

## 幕末・明治初期の京都における 労働移動と労働市場

—奉公人の雇用を中心として—

長島 雄毅

本論文は、幕末・明治初期における大都市・京都を対象として、労働市場との関わりから労働移動を分析し、さらには地域構造、都市社会構造の解明に寄与することを目的とする。

歴史地理学における人口研究は歴史人口学との交流の中で成果が蓄積されてきた。歴史人口学は国勢調査開始以前の出生や死亡、結婚、移動などの動向を統計分析の手法から検討する点に特徴がある。こうした手法は地域構造や地域変化の把握を行う歴史地理学にも受容されており、本研究も同様の立場をとるものである。

第Ⅰ章では、歴史人口学との研究史上の接点に留意しながら、人口移動、なかでも労働移動の研究について整理が行われる。歴史人口学における移動の研究は、主として、宗門改帳などから把握できる転居などの正式な「移動」が対象とされる。特に1980年代ごろまでは、農村を対象とするものが相対的に多く、歴史地理学でも地域構造の解明という観点から研究が蓄積された。1990年代以降、「移動」の研究は、都市を対象としたものが増加した。そこでは、労働市場の変化による奉公人の減少、都市内部における労働形態の多様性、転入者の出身地域などが議論されてきたが、歴史地理学からの研究は十分に行われてこなかった。以上をふまえて、本研究では、都市内部における地区間の差異などに着目した地理学的な視点から、労働移動と労働市場の関わりが分析される。

第Ⅱ章では、京都の都市形態、全国市場における位置づけなどが整理されたのち、京都の人口趨勢が提示される。また、当時の京都における地区間での雇用形態の差異にも言及し、次章以降の議論の前提を示している。

第Ⅲ章では、京都中心部の一商家を事例として、住込み奉公人の職掌・出身地域・出身階層の分析を行い、京都の労働市場および労働移動、そして周辺地域との関係性が考察される。主な史料は、遠藤家文書（京都市歴史資料館架蔵の紙焼き版）のうち、奉公人請状と別家申渡帳である。これらを分析した結果、商家やその別家を通じて都市内部から供給された手代（丁稚）、日本海側の農村出身の下男、近江など周辺地域出身の下女という職掌ごとの相違が抽出され、京都と周辺地域との人的つながり方には多様性があったことが指摘された。

第Ⅳ章では、史料的制約のために不明であった京都の住民の労働移動先の検討を通じて、労働市場の実態が検討される。史料は、梅忠町文書（京都市歴史資料館架蔵の紙焼き版）のうち、明治初期の戸籍編成事業に関連して実施された職分調査の結果で、中心部28か町の住民による「通い勤め」「奉公」「出稼ぎ」が書き上げられている。これを分析したところ、「通い勤め」「奉公」による近隣の大店への雇用のほか、「奉公」の一部や「出稼ぎ」による大阪や東京など上位の中心地や北海道・薩摩など遠方への労働移動が確認され、それらの背景として商売上のネットワークが示唆された。そして、京都の労働市場、そして雇用に伴う労働移動の展開に対して大きな影響力を持つのが少数の有力商家であったことが明らかにされた。

第Ⅴ章では、幕末における周辺地域から大都市への労働移動の状況を検討するため、丹波国桑田郡馬路村（現在の京都府亀岡市馬路町）を対象として、宗門改帳の整理・分析が行われる。その結果、幕末の馬路村では、男女とも10代において村外へ労働に出る割合が高く、彼らは平均して10年程度の契約を結んでいた。労働移動先の半数近くは京都で、雇用終了後に帰村する人々が大半であった。この背景には、奉公終了後の独立が困難になっていたという都市側の事情、そして労働力不足が常態化していた村落側の事情がうかがわれた。

第Ⅵ章では、前章までの議論を再度整理したうえで結論と今後の課題が提示される。第Ⅲ～Ⅴ章の結果をふまえると、京都の都市内部や周辺地域との間では、労働者の安定的な再生産を望む雇用者と、労働の可能性を規定されながらも有利な選択を行おうとする労働者とが交錯する中で労働移動が展開していた。さらに、京都における労働移動は中心部とそれ以外との間でゆるやかな分化がみられたことも示唆された。今後の課題としては、短期的な変化を考慮した分析を行うこと、都市の「雑業者」の存在をふまえた地域構造や都市社会構造を提示することが必要である。

# 修士論文要旨

2016年度

## 日系商店集積地の形成と発展

勝 又 阿 暁

本論文は、デュッセルドルフ日本人社会の成立過程を記述し、中でもインマーマン通り周辺における日系商店集積地の形成と発展及び現在を明らかにするものである。

まず現地日本人コミュニティの記念誌を用い、当地に日本人社会が作られた過程を描くと共に、デュッセルドルフ市の過去の住所録を用いてインマーマン通り周辺の日系商店の立地を経年比較し、集積形成過程の空間的理解を試みた。これらより、日本人社会の発展には日本クラブや日本商工会議所が大きな役割を果たしてきたこと、また集積地形成には独日センターや日本館等の施設が影響を与えたことを示した。

続いてインタビューにより、日本人社会や日系商店集積地の現在を理解することを試みた。既に日系商店の集積は再生産の段階にあり、今後も集積は続くと考えられる一方、駐在員減少や現地顧客増加の影響から商店の種類などは変化しつつあり、地域は現在もそのあり方を変化させていることを示した。

## 中国古代哲学思想から考える 中華伝統文化の伝承

馬 貝 妮

『易辞上』には、「天、象を垂れ、吉凶を見ず。聖人これに象る」との記載がある。筆者はもちろん敢えて聖人と同列に論じない。しかし現在の中国社会に現れた混乱現象は、天から垂れた警告ではないだろうか。筆者は、ただこの文によって中国古代哲学思想の知恵及び中華伝統文化の伝承意義を論証するのである。儒家の四書五経は「持経

達変」を、意味は適切な変化を永遠に維持することは天道自然であると示唆している。『論語・学爾第一』には、「子曰く、君子は本を務む。本立ちて道生ず」、また「君子は根本のところから努力すべきであり、土台は堅実であれば、人生の正しい道に繋がる。道は人生の正道を代表する」とある。中国伝統文化は私たちの根本で、社会人倫関係を扱う基礎であり、人生にある多数の選択で正道を見極め選択できる示しである。中国は唯一存在する文明古国として、先賢の知恵を受け継ぐのは私たち中国人としての責任であり、自分の本分でもある。さらに、工業化と商業化を中心に進んだグローバル化の中で自己文化を失った地域も現れ始めている。孔子の「天下大同」思想を用いることで異文化を尊敬する上に世界は融合することはできる。

## 修学旅行における地域の役割

—鹿児島県を事例に—

竹 林 朋 子

本稿は、日本の伝統的な学校行事である修学旅行に注目する。現在の修学旅行は、見学・体験を問わず様々な活動を行う傾向にあり、全国各地で修学旅行の実施が進んでいる。その現状を踏まえ、本稿では鹿児島県を事例に、修学旅行地としての地域の役割について論じる。鹿児島県では民泊・平和学習といった多様な活動ができることを強みとして、県内のほぼ全域で修学旅行の受け入れを行っており、2000年代以降受け入れ数が増加傾向にある。一方、実際に修学旅行で鹿児島県を訪れた生徒へのアンケート調査から、修学旅行全体の満足度は高かったものの、長距離移動など受け入れに際しての課題も明らかとなった。

以上のことを踏まえると、修学旅行地は、各地区でどのような活動が実施できるのかを「整理す

る」視点と、地域全体を通して修学旅行という一連の教育活動を作る「繋げる」視点の2つを併せ持ちながら、修学旅行における様々な課題と向き合うことが望まれる。

## 農業用水をめぐる行政支援と 用水汚濁の地域差

—光明池土地改良区を事例に—

谷口晴彦

光明池土地改良区を事例として、行政区域と農業水利地域を重ねた農業用水をめぐる重層的な地域構造を設定し、行政支援の地域差や区域外への行政の影響力を含む視点から、水利施設の維持管理に対する行政支援の地域差と用水汚濁問題における行政と水利地域の関係を明らかにした。

まず、行政支援の地域差に関して、複雑な水利施設の維持管理体制、末端施設の維持管理に対する行政支援の差を明らかにした。そして、背景となる各市の文脈を踏まえ、その地域差の存在は、同水利条件下の地域内であっても行政区域によって農業の存続条件が規定されることを意味するとした。

次に、用水汚濁における行政と水利地域に関し、汚濁の推移や水田の減少を明らかにし、汚濁と水利地域の関係を考察した。更に、新聞記事から汚濁問題と行政活動の関係を示した上で、行政の区域内外に影響を与える活動と、問題を共有する水利地域が相互に関連し、用水汚濁問題が発生するとした。

## 現代日本の都市祝祭における ご当地キャライベント

—ひこにゃんの事例を中心に—

楊 暁 丹

本研究の特色はご当地キャライベントを研究対象とし、茂木栄(1989)、矢島妙子(2015)な

ど都市祝祭に関する先行研究を整理し、ご当地キャライベントが都市祝祭に位置づけて研究する可能性を提示することである。

研究対象のひこにゃんの近年の活動資料に基づき、イベントの地域、時間、場所、組織を分析し、ご当地キャライベントが都市祝祭としての特徴をまとめ、地域交流のネットワークがご当地キャライベントの展開により広げられることを提示した。彦根市ではご当地キャライベントを通じて、産学官民協力の形で地域振興している事実を本稿で実証を試みた。

また、「ご当地キャラ博 in 彦根 2016」の開催時に実施した実地調査の結果を報告し、ご当地キャライベントの展開の実態を明らかにし、都市祝祭としてのご当地キャライベントの問題点を発見した。

## 中国西北部における土地被覆変化 に関する研究

—伊寧市及びその周辺地域を事例に—

柴倫加甫 斯琴

CHAILUNJIAFU SIQIN

本論は、土地被覆・土地利用の変化から都市化を捉え、中国西北地域における最近20年間の土地被覆変化を地図化し、さらに土地被覆・土地利用変化の原因を明らかにすることを目的とする。対象とする地域は、中国新疆ウイグル自治区の伊寧市である。

研究方法としては、まず伊寧市における1992年から2011年にかけての衛星データを用いて土地被覆を地図化し、各土地被覆分類項目の面積変化と各土地被覆分類項目間の転換を検討した。次いで、対応する時期の自然環境や、政策、社会経済、人口の変化に注目し、最近20年間伊寧市の社会変化を検討した。また、土地被覆・土地利用変化と社会変化を統合的に分析し、土地被覆・土地利用変化の原因を推定した。

分析の結果、最近 20 年間で伊寧市は急速な土地被覆・土地利用の変化が続いており、人口や社会経済なども急速な発展が進み、都市化の傾向が強いということを明らかにした。

## 衛星画像と GIS 技術を用いた乾燥地域における古代灌漑システムの 解明

一旦末（チェルチェン）を事例に—  
錢 佳 輝

衛星画像がリモートセンシングの製品として、各分野の研究に用いられる。特に遺跡調査、よりマクロの視点から遺跡の全体、又はその空間性、周辺関係を把握することができる。乾燥地域では人為的な破壊が強くなく、地表の植物もかなり少ないため、衛星画像の活用に非常に有利となった。

中国新疆タリム盆地周辺にある且末県は昔シルクロード南道の重要な都市国で、漢文化と西方文化の影響を共同に受け、混合型文化を生じた。その且末（チェルチェン）オアシスの南西部に古代の灌漑システムの遺跡が残され、本研究では、高解像度の衛星画像と DEM データに基づいて、GIS 技術を利用し、この灌漑システムを復原することになった。その上、当地の歴史と文献資料も踏まえ、復原結果と一緒に整理分析し、この灌漑システムを解明することを目指す。最後に、同様類型のミーラン灌漑システムと比較し、且末（チェルチェン）灌漑システムの独特な所と同一点を理解する。

2017 年度

## 中国における農業の企業参入の 発展

—麻城市の菊花産業を事例に—

王 琪 薇

本論では農業の企業参入を「先駆企業が中心となって、農産品のブランド化を推進し、農業技術を発展させることにより、農民の所得増加及び地域活性化と農業に対する意識改革を促進することを目的とした農業のあり方」と定義し、中国においては蓄積の少ない事例研究として、麻城市の菊花産業を対象に現地調査を行った。その結果、企業側には統一的な生産標準がなく、先駆企業が大規模化せずに、「福白菊」というブランド意識を持つものの、影響力が低いことが分かった。また、企業は地域を活性化させるが、内発的なものであり、単一化する傾向がある。政府側は先駆企業に対する支援を充実させているが、農村の土地賃借制度の改革が足りず、確実に農民に還元できる政策がほとんどない。農民側は菊花の付加価値の高さに着目し、菊花生産を積極的に行うが、ブランド化する意識が低く、会社と政府の生産指導に従わないことで、品質差をもたらしている。

## 地域活動の展開と地名の使用 —千里ニュータウン再生の取り組みを 中心に—

北 西 諒 介

本稿は昨今の地名標準化の議論を踏まえた上で、地域社会における地名の使用実態の解明を目的としている。そのための視角として、大阪府の千里ニュータウン（以下、NT）において展開する地域活動と「千里」・「千里 NT」という地名との関係に着目した。地域活動の主体として、行政、市民活動団体、自治会の 3 者を取り上げ、聞き取りを行った結果、行政の立場からは、これらの地名

を NT 外や市外へ適用することは避けられているものの、NT の位置する 2 市の連携の象徴として使用されていることがわかった。一方で、多くの住民は「千里 NT」と比べ「千里」を空間的にも意味的にも抽象的な概念として受け取っていることが指摘された。ただし、市民活動参加者にはその抽象性が積極的に評価されているが、自治会関係者からはそれらの地名自体が自治会の活動のスケールとは合致せず、あまり重要視されていないことが明らかになった。

## 京都市嵐山における観光消費の 変遷と現在 —ガイドブックと GPS ロガーによる 分析—

米 田 剛

本稿では観光行政史・旅行ガイドブックの記述と GPS ロガーによる観光行動調査から京都市嵐山の観光形態の変遷と現在を明らかにした。

先行研究、行政文書の整理とガイドブックのテキスト分析から戦後の嵐山観光の変遷は下記のようにまとめられる。学術価値の高い史跡・名勝を巡る観光が主流だったので交通インフラが整えられたが、観光嗜好の多様化により渡月橋、飲食店など映像メディアに取り上げられるものが観光の中心となっていった。

上述の変化はガイドブックのモデルコースにも反映され、年々行動範囲は縮小傾向にある。だが GPS ロガーによる行動分析は北部の寺社を広域に巡るもの、渡月橋周辺の狭域に留まるもの、その中間に分類できたことからガイドブックでは影を潜めがちな寺社巡りも決して衰退していないことがわかった。

以上より、嵐山の観光は寺社巡りから映像メディア関連の資源に重点が移るも、両者が共存する形で観光が成立していることがわかった。

# 研究室だより

(2017年1月～2018年12月)

## 2017年

・1月4～7日

小島は集落再編科研（「集落再編の国際比較と生活空間論による再考」基盤A, 代表:小島）により、農村地理学者7人を引率して中国南京のエクスカージョンを実施した。博士後期課程の潘藝心が通訳・補助のため参加。潘は、1月6日に南京大学建築与都市計画学院で開催された「農村発展と計画建設」国際討論会において、日中通訳を務めた。

・1月8日

潼関科研（「前近代中国における交通路と関津の環境史学的研究」基盤B, 代表:福原啓郎 京都外国語大学教授, 25284118）による国際シンポジウムが京都外国語大学において開催され、小方が「DEM（数値標高モデル）から読み取る潼関・函谷関の地形環境」、小島が「点を線から考える—1937年空撮地形図を用いて」と題して報告を行った。

・1月20日

小島が共著者の一人である『高等学校 新地理A』（帝国書院）が刊行された。

・1月22日

山村は、『犬山城シンポジウム—「城郭」の歴史的価値を考える—』（犬山市教育委員会主催, 於犬山国際観光センターフロイデ）において、「犬山城下町の形成と変遷」と題した講演を行った。

・1月23日

山村は、関市において、刃物業と中近世関の都市形成に関する現地調査を、関市教育委員会文化財課の依頼を受けて行った。

・1月24日

山村は、向日市において、物集女城の発掘調査の現場指導を、向日市埋蔵文化財センターの

依頼を受けて行った。

・1月27日

山村は、滋賀県指定文化財登録に係る日野仁正寺藩の大名墓所の現地調査を行った。

・1月29日

山村は、第66回1617会水口岡山例会（甲賀市教育委員会・1617会共催, 於水口中央公民館 鹿深ホール）において「古地図から考える水口岡山城下町」と題した発表を行った。

・2月13日

中山大学地理科学与规划学院の学生と教師の一行が研究室を訪問。学生間交流など行った。

・2月15～18日

島津俊之和歌山大学教育学部教授が「地域空間論V」「歴史地域論」の集中講義を行った。

・2月19日

山村は、アワコウコ楽公開講座『戦国時代の阿波』（公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター主催, 於同センター）において、「地図から考える戦国時代の吉野川デルタと勝瑞」と題した基調講演を行った。

・2月24日

山村は、長浜市史跡等保存活用委員会（長浜市）に出席し、国史跡小谷城の保存と活用について現地指導を行った。

・2月28日

山村が分担執筆（「室町・戦国期における勝瑞の立地と形態」126-146頁）した『守護所・戦国城下町の構造と社会』（石井伸夫・仁木宏編, 思文閣出版）が出版された。

・3月2日

山村は、中世城館・近世城郭遺跡等の保存に関する検討会（文化庁）に出席した。

・3月3～7日

山村は、学部生とともに、山陰地方と江の川



流域の城下町・港町（米子・美保関・境港・安来・松江・杵築・平田・温泉津・江津・三次）の巡検を行った。

・3月5日

威海市政府によって開催された国際シンポジウムにおいて、以下の発表が行われた。潘藝心「山東半島城市群発展計画（2016-2030）と威海市の位置づけ」（原題「山東半島城市群発展規劃（2016-2030）与威海市的定位」）。

・3月7日

煙台市政府によって開催された国際シンポジウムにおいて、以下の発表が行われた。潘藝心「山東半島城市群発展計画（2016-2030）と煙台市の位置づけ」（原題「山東半島城市群発展規劃（2016-2030）与煙台市的定位」）。

・3月8日

山村は、滋賀県文化財保護審議会（滋賀県）に出席した。

・3月10日

「江戸時代の奈良を歩く」と題する研究室巡検が行われ、18世紀の古地図をもとに興福寺・東大寺・元興寺周辺を巡った。（担当：金澤良輔）

・3月10～16日

小島は華南科研（「中国華南の地域構造の再編に関する地理学的調査研究」基盤B海外学術調査、代表：小島）により、中国広州の中山大学で資料収集を行った。

・3月11日

山村は、勝瑞城シンポジウム『戦国城下町勝瑞の構造と社会』（藍住町・藍住町教育委員会主催、於藍住町コミュニティセンター）において、「勝瑞の立地と景観」と題した講演を行った。

・3月17日

山村が分担執筆（「二俣城下町の空間構造」179-188頁）した、浜松市教育委員会編『二俣城跡・鳥羽山城跡総合調査報告書』が発刊された。

・3月20日

小島が執筆者の一人である『高等学校新地理

A指導資料』（帝国書院）が刊行された。

中国鉱業大学で開催された国際シンポジウムにおいて、以下の特別研究発表が行われた。潘藝心「計画経済期における南京の工業用地の拡大」（原題「計劃經濟時期南京的工業用地擴展」）。

・3月23日

勝又阿暁（指導教員小島）、馬貝妮（同）、竹林朋子（同）、谷口晴彦（同）、楊曉丹（同）、スチン（柴倫加甫 斯琴）（指導教員小方）、銭佳輝（同）が、京都大学修士（人間・環境学）を授与された。竹林朋子は京都府の高校教員として採用され、京都府立菟道高等学校に赴任した。

・3月24日

山村は、長久手市文化財保護審議会（長久手市）に出席した。

砂田哲宏（指導教員小島）、中垣智晴（同）、奈良美和子（同）、盛本悠人（同）、三好志尚（指導教員山村）が京都大学学士（総合人間学）を授与された。

・3月25日

神戸大学で開催された日本人口学会関西地域部会2016年度研究報告会において、以下の発表が行われた。長島雄毅「職分調査結果にみる明治初期の下京第四区における住民の労働移動」。

・3月27日

曹榮林南京大学退休教授が「中国の経済地理学者は都市農村計画の実践にいかに関与しているか—南京大学を例に—」と題する講演を行った。講演は中国語で行われ、通訳を博士後期課程の石田曜が担当した。

小島泰雄編『中国東北における地域構造変化の地理学的研究—延吉調査報告—』京都大学人間・環境学研究科地域空間論分野が刊行され、小島「延吉農村における朝鮮族の移動性と農地の流動化」（56-64頁）と石田曜「中国都市における余暇空間の特徴—中国吉林省延吉市の都市公園・広場を事例に—」（16-24頁）が掲載さ

## 研究室だより

- れた。
- ・ 3月31日  
山村が分担執筆（「近世絵図調査」32-45頁・「城郭・城下町の空間構造」226-251頁）した，犬山市教育委員会編『犬山城総合調査報告書』が発刊された。
  - ・ 4月1日  
京都大学広報誌『紅萌』第31号に，山村の担当する地域地理学の講義が，「教養・共通科目潜入レポート：地図にのこされた歴史の痕跡をたどる」として掲載された。
  - ・ 4月7日  
修士課程に蔵田典子（指導教員小方），黄崢崢（指導教員小島），張莎（同），古川貴大（同），齋藤駿介（指導教員山村），三好志尚（同）が入学，博士後期課程に谷口晴彦（指導教員小島）が進学した。
  - ・ 4月8日  
山村が分担執筆（「城下町—空間構造の変遷—」73-74頁）した，『織豊系城郭とは何か—その成果と課題—』（村田修三監修・城郭談話会編，サンライズ出版）が出版された。
  - ・ 4月11日  
石田は，同志社女子高校にて「地理 B」の非常勤講師を務めた。2019年2月12日まで。
  - ・ 4月16日  
谷口は，京都大学総合博物館の地理資料部門のオフィス・アシスタントを務める。期間は2018年3月31日まで。
  - ・ 5月26日  
山村は，文化審議会文化財分科会第三専門調査会（文化庁）に出席し，重要文化的景観の選定について審議を行った。
  - ・ 5月28日  
山村は，水口岡山城跡国史跡指定記念シンポジウム『近世甲賀の起点 水口岡山城—現代に続く礎—』（甲賀市教育委員会主催，於甲賀市碧水ホール）において，「水口の礎を築いた城下町と宿場町」と題した講演を行った。
  - ・ 6月2日  
京都大学人文科学研究所で開催された「転換期中国における社会経済制度」研究班において，以下の研究発表が行われた。潘藝心「消費都市から生産都市へ：計画経済期の南京と大廠」。
  - ・ 6月3～4日  
山村は，科研費「中世・近世移行期における守護所・城下町の総合的研究」（基盤 A：代表・仁木宏）による『北関東研究集会 伝統的武家の城下町』シンポジウム（於小山市文化センター）に参加した。
  - ・ 6月10日  
山村は，地域構造論 1（地域空間論 II A）の一環として，近江八幡城と城下町の巡検を企画・実施した。
  - ・ 6月17日  
山村が案内人として出演した，NHK 放送バラタモリ第 76 回「名古屋・熱田」が放映された。  
由利本荘市文化交流会館カダーレで開催された日本建築学会東北支部研究報告会において，以下の発表が行われた。齋藤駿介「仙台における建物疎開跡地の処理 一戦時期仙台における防空都市計画に関する研究（その 2）—」。
  - ・ 6月19日  
山村は，長浜市史跡等保存活用委員会（長浜市）に出席した。
  - ・ 6月24日  
大阪保健医療大学・大阪工業技術専門学校で開催された日本建築学会近畿支部研究発表会において，以下の発表が行われた。齋藤駿介「仙台における建物疎開区域指定とその実施 一戦時期仙台における防空都市計画に関する研究（その 1）—」。また，この発表によって齋藤は，平成 29 年度（第 10 回）日本建築学会近畿支部研究発表会優秀発表賞を受賞した。
  - ・ 6月26日  
山村は，犬山城城郭調査委員会（犬山市）に出席した。

・7月1～2日

山村は、科研費「中世・近世移行期における守護所・城下町の総合的研究」(基盤A:代表・仁木宏)による『豊臣期における大坂と摂河泉』シンポジウム(於大阪歴史博物館)に参加した。

・7月6日

潘は、中国鉱業大学大学院建築学研究科の要請に応じて、「中国都市発展史:徐州を事例にして」(原題「中国城市發展史:以徐州為例」)と題して、中国鉱業大学大学院建築学研究科の院生を対象にした遠隔授業を行った。

・7月9日

山村は、地域構造論1(地域空間論II A)の一環として、大津城下町・港町の巡検を企画・実施した。

・7月10日

山村は、岐阜県文化財保護審議会(岐阜県)に出席した。

・7月11日

山村は、石川県立小松高校からの学生・教員の大学訪問に際し、「小松の新旧地形図を読む」と題して、模擬授業を行った。

・7月15日

小島は大阪府立茨木高校で高大連携の出前授業を行った。

中国人民大学・北京で開催された第14回宗教社会科学年会において、以下の発表が行われた。黄崢々(共著者)「宗教市場論の局限を理解する3つのアプローチ-仮説・方法論及び歴史性-」(原題「理解宗教市場論局限的三個方向-仮説,方法論及歴史性」)。

・7月18～19日

上海社会科学院歴史研究所で「“跨学科背景下的城市人文遺產研究与保護”国際學術研討会」が開催され、小方が「亞洲歴史城市与聚落之立地,形態的類型化考察—基于衛片,地形数据的分析(鍾獅教授翻釈)」という題目で、発表した。

・7月22日

齋藤は四条啜学園中学校の京都大学総合人間学部訪問において、「現代都市の景観に見る歴史」と題して研究紹介を行った。

・7月31日

山村は、滋賀県文化財保護審議会(滋賀県)に出席した。

・8月1～2日

山村は、史跡益田氏城館遺跡群整備検討委員会(益田市)に出席した。

・8月2～4日

水野勲お茶の水女子大学教授が「地域空間論IV」「経済空間論」の集中講義を行った。

・8月12～25日

小島は華南科研により、深圳および広東省東部のフィールド調査を行った。

・8月18日

貴陽市政府によって開催された国際シンポジウムにおいて、以下の発表が行われた。潘藝心「“九門四閣”:貴陽城の都市構造と“老城区”」(原題「“九門四閣”:貴陽城的城市結構与“老城区”」)。

・8月21日

金華市政府によって開催された国際シンポジウムにおいて、以下の発表が行われた。潘藝心「長江デルタ城市群發展計画と金華市の位置づけ」(原題「長江三角洲城市群發展規劃与金華市的定位」)。

・8月21～30日

小方は、イタリアに赴き、主にシチリア島のフェニキア・ギリシアの都市遺跡を調査した。パレルモ・モテュア・セリヌンテ・アグリジェント・シラクサなどを訪れた。

・8月22日

山村は、関市において、刃物業と中近世関の都市形成に関する現地調査を、関市教育委員会文化財課の依頼を受けて行った。

・8月24日

厦門大学で開催されたBRICS国家国際シンポジウムにおいて、以下の研究発表が行われた。

## 研究室だより

- 潘藝心「アフリカ石油資源の開発と運輸における中国とインドの合作に関する戦略的思考：“一带一路”提案を背景にして」（原題「“一带一路” 倡議框架下中印合作開發運輸非洲石油資源的戰略思考」）。
- 『厦門大学 BRICS 国家国際シンポジウム論文集』に以下の論文が掲載された。潘藝心「アフリカ石油資源の開発と運輸における中国とインドの合作に関する戦略的思考：“一带一路”提案を背景にして」（原題「“一带一路” 倡議框架下中印合作開發運輸非洲石油資源的戰略思考」101-110頁）。
- ・ 8月26～27日  
山村は、科研費「中世・近世移行期における守護所・城下町の総合的研究」（基盤A：代表・仁木宏）によ『再論』守護所・戦国城下町の構造と社会—阿波国勝瑞—』シンポジウム（於徳島大学）に参加した。
  - ・ 8月30日  
四條畷高校一行が研究室を訪問し、北西諒介が対応した。
  - ・ 8月31日  
広島工業大学で開催された2017年度日本建築学会大会（中国）において、以下の発表が行われた。齋藤駿介「仙台における消防道路整備計画と建物疎開の関係—戦時期仙台における防空都市計画に関する研究（その3）—」。
  - ・ 9月2～4日  
山村は、院生とともに、瀬戸内の港町・城下町（岩国・呉・松山）の巡検を行った。
  - ・ 9月5日  
山村は、彦根市佐和山城跡総合調査検討委員会（彦根市）に出席した。
  - ・ 9月11日  
山村は、学部生・院生とともに、摂津富田寺内町と高槻城下町の巡検を行った。
  - ・ 9月19日  
山村は、史跡美濃金山城跡整備委員会（可児市）に出席した。
  - ・ 9月20日  
山村は、学部生・院生とともに、浦和・大宮（さいたま市）の巡検を行った。
  - ・ 9月22日  
山村は、長久手市文化財保護審議会（長久手市）に出席した。
  - ・ 9月27日  
小島は『吉野正敏先生の思い出』（吉野正敏先生を偲ぶ会準備委員会編）に「吉野先生と日中地理学会議」と題した一文を寄せた。
  - ・ 9月29～30日  
三重大学で開催された日本地理学会2017年秋季学術大会において、小島は筒井一伸鳥取大学教授と共同で、シンポジウム「田園回帰と地理学理論」をオーガナイズした。なおこのシンポジウム報告はE-journal GEO (12-2, 318-321頁)に掲載された。また、以下の発表が行われた。谷口晴彦「農業用水の維持管理に対する行政支援の地域差—光明池土地改良区における水利施設の改修を事例に—」。
  - ・ 10月6～11日  
科研プロジェクト「古道・関塞遺址調査に基づく前近代中国主要交通路の研究」（代表者：辻正博教授）の一環として、中国で調査が行われ、小方・小島が参加した。漢中盆地周辺の古代の交通路などを調査した。
  - ・ 10月14～15日  
山村は、科研費「中世・近世移行期における守護所・城下町の総合的研究」（基盤A：代表・仁木宏）による総括シンポジウムI（於京都大学）に参加し、会場責任者を務めた。
  - ・ 10月16日  
山村は、史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会（長久手市）に出席した。
  - ・ 10月21日  
山村は、京大生ファミリーイベント（京都大学主催、於京都大学法経本館）において、「景観から歴史を読む—京都大学の歴史地理—」と題した講演を行った。

- ・ 10月27日  
山村は、文化審議会文化財分科会第三専門調査会（文化庁）に出席し、重要文化的景観の選定について審議を行った。
- ・ 10月28日  
小方は、フェニキア・カルタゴ研究会（放送大学東京文京学習センター）において、8月に行ったシチリア島の調査成果などを発表した。
- ・ 11月4～5日  
山村は、科研費「中世・近世移行期における守護所・城下町の総合的研究」（基盤研究A：代表・仁木宏）による総括シンポジウムⅡ（於大阪市立大学）に参加し、「城下町の空間構造と港・寺・町」と題した発表を行った。この内容を、『中世・近世移行期における守護所・城下町の総合的研究（2）』の1-17頁に論文として執筆した。
- ・ 11月7日  
山村は、史跡益田氏城館遺跡群整備検討委員会（益田市）に出席した。
- ・ 11月10日  
山村は、滋賀県文化財保護審議会（滋賀県）に出席した。
- ・ 11月18～19日  
明治大学駿河台キャンパスにて開催された2017年人文地理学会大会において、以下の発表が行われた。潘藝心「変貌する中国のインナーシティ：江蘇省無錫市を事例に」。劉天野「長春市における商業空間の形成と変容」。藏田典子「京都市における「強制疎開住民」の移転先とその特徴—行政文書『都市疎開ニ依ル移転費交付申請書』の分析から—」。三好志尚「中世鹿児島島の港と戦国城下町の形成」。
- ・ 11月20日  
秋山元秀ほか編『世界地名大事典 第1巻 アジア・オセアニア・極 I <アーテ>』（朝倉書店）に小島は「長春」ほかの項目、石田は「瀋陽市」ほかの項目を執筆。また秋山元秀ほか編『世界地名大事典 第1巻 アジア・オセアニア・極 II <トーン>』（朝倉書店）に小島は「ハルビン」ほかの項目、石田は「ラサ市」ほかの項目を執筆した。
- ・ 11月22日  
山村は、長浜市歴史文化基本構想策定委員会（長浜市）に出席した。
- ・ 11月27日  
周振鶴復旦大学教授が鍾翀上海師範大学教授の同行で研究室を訪問。小島と研究交流を行う。
- ・ 11月29日  
山村は、中世城館・近世城郭遺跡等の保存に関する検討会（文化庁）に出席した。
- ・ 11月30日  
山村は広島市立舟入高校にて、文系の高校2年生に対し、模擬授業「新旧地形図にみる広島の戦後復興」を行った。
- ・ 12月4日  
山村は、彦根市佐和山城跡総合調査検討委員会（彦根市）に出席した。
- ・ 12月6日  
山村は、岐阜市長良川流域の文化的景観検討委員会（岐阜市）に出席した。
- ・ 12月9日  
山村は、平成29年度企画展『大地の形をつかむ』展示関連講演会（京都大学総合博物館主催、於京都大学総合博物館）において、「地図から読む地形と地域社会—火山と景観：阿蘇・熊本—」と題した講演を行った。
- ・ 12月10日  
山村は、学部生・院生とともに、越前府中城下町（越前市）の巡検を行った。
- ・ 12月15日  
潘は、京都大学人間・環境学研究科平成29年度教養教育実習に参加し、地域地理学各論Ⅲ（アジア・アフリカ）における「中国都市」の部分を担当し、京都大学の学部生を対象にした授業を行った。
- ・ 12月17日

## 研究室だより

山村は、地域構造論Ⅱ（地域空間論ⅡB）の一環として、桶狭間古戦場と近世東海道（鳴海宿，有松宿）の巡検を企画・実施した。

### ・12月28日～1月9日

山村は、科研費「港町景観の近世化プロセスに関する歴史地理学研究」（基盤C：代表・山村）による南イタリアの中世港町と空間構造に関する資料収集と現地調査を行った。

## 2018年

### ・1月19日

石田曜の博士学位審査に関する公聴会が開催された。

### ・1月23日

長島雄毅の博士学位審査に関する公聴会が開催された。

### ・1月24日

山村は、史跡美濃金山城跡整備委員会（可児市）に出席した。

### ・1月26日

山村は、史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会（長久手市）に出席した。

### ・1月28日

山村は、『史料から歴史の謎を読み解く 2017 第2回講演会』（西尾市岩瀬文庫主催，於西尾市岩瀬文庫）において、「地図から考える三河・尾張の城下町」と題した基調講演を行った。

### ・1月29日

山村は、長浜市歴史文化基本構想策定委員会（長浜市）に出席した。

### ・2月10日

山村は、『あつた宮宿まちづくりフォーラム 2018』（あつた宮宿会・名古屋学院大学主催，於名古屋学院大学白鳥学舎）「名古屋・熱田の地理学的評価—NHK プラタモリを振り返って—」と題した基調講演を行った。

### ・2月13日

山村は、二俣城跡及び鳥羽山城跡保存活用計画策定事前検討会（浜松市）に出席した。

### ・2月19～20日

山村は、大分県近世重要遺跡詳細分布調査委員会（大分市）に出席し、中世田染荘（豊後高田市）の現地調査を行った。

### ・2月21日

山村は、犬山城城郭調査委員会（犬山市）に出席した。

### ・2月22～24日

山村は、重要文化的景観選定地である阿蘇カルデラー帯（熊本県）の視察と整備・活用に向けての議論を、文化庁・関連自治体職員と文化審議会第三専門委員会委員とともに現地で行った。

### ・3月6日

山村は、長久手市文化財保護審議会（長久手市）に出席した。

### ・3月7日

山村は、物集女城（向日市）の発掘調査の現場指導を、向日市埋蔵文化財センターの依頼を受けて行った。

### ・3月9日

山村は、岐阜市長良川流域の文化的景観検討委員会（岐阜市）に出席した。

### ・3月10～14日

科研プロジェクト「古道・関塞遺址調査に基づく前近代中国主要交通路の研究」（代表者：辻正博教授）の一環として、中国で調査が行われ、小方が参加した。漳河の古代灌漑設備の跡などを調査した。

### ・3月13日

山村は、中世城館・近世城郭遺跡等の保存に関する検討会（文化庁）に出席した。

### ・3月13～17日

小島は集落再編科研により、中国成都において都市農村一体化にかかわる資料収集を行った。

### ・3月15日

山村は、彦根市佐和山城跡総合調査検討委員会（彦根市）に出席した。

- 3月21日  
寧波市政府によって開催された国際シンポジウムにおいて、以下の発表が行われた。潘藝心「長江デルタ城市群発展計画と寧波市の位置づけ」(原題「長江三角洲城市群発展規劃与寧波市的定位」)。
- 3月22日  
東京学芸大学で開催された日本地理学会2018年春季学術大会において、以下の発表が行われた。小島泰雄「深圳の農村はいかにして無くなったのか」。北西諒介「行政と市民活動団体による地名「千里」の使用とその意味」。
- 3月25日  
総合人間学部・人間・環境学研究科設立25周年の記念式典が京都大学百周年時計台記念館で開催された。
- 3月26日  
石田曜(指導教員小島)と長島雄毅(指導教員小方)が京都大学博士(人間・環境学)を、王琪薇(指導教員小島)、北西諒介(同)、米田剛(同)が京都大学修士(人間・環境学)を授与された。石田曜と長島雄毅は、4月1日より研修員として在籍。
- 3月27日  
平野泰隆(指導教員小島)、大塚香苗(同)、上良智子(指導教員山村)、羽部浩太郎(同)が京都大学学士(総合人間学)を授与された。
- 3月28日  
潘は、中華人民共和国人力資源与社会保障部、外国専家与留学人員服務中心によって主催された「海外学子報国行」活動に参加し、「古い市鎮の保護と“特色小鎮”の開発」(原題「古鎮保護与“特色小鎮”開發」)と題して、四川省成都市で政府関係者を対象にした講演会を行った。四川テレビ、四川日報、成都晩報、成都商報、神州学人などのメディアによって取材された。
- 4月6日  
修士課程に曲新苗(指導教員小方)、黄拯(指導教員小島)、周冠雄(同)、西村渉(指導教員山村)、羽部浩太郎(同)が入学、博士後期課程に夏目宗幸(指導教員小方)が編入学、北西諒介(指導教員小島)が進学した。
- 4月8日  
山村は、三重大学大学院地域イノベーション学研究科の客員准教授として、博士課程の学生に論文指導を行った。約2か月に1度、同大学院の教員とともに共同で指導を行う。
- 4月10日  
山村が分担執筆(「中近世移行期における地域構造の変化と港町の景観—出羽酒田を事例として—」130-150頁)した『歴史地理学と景観史』(金田章裕編、吉川弘文館)が出版された。
- 4月10~14日  
夏目は、米国、ルイジアナ州ニューオーリンズ市にて開催された、“American Association of Geographers 2018 New Orleans Annual Meeting”において、以下の発表を行った。Muneyuki Natsume “Reconstruction of Landscape and Wind Environment of the 19th Century Rural Village”. また、共同発表者として、以下の発表を行った。Yukihisa Hoshida, Kazuko Tanaka, Muneyuki Natsume, Shohei Nagata “The 19th Century Souvenir Album Collection at Kyoto University”.
- 4月12日  
石田は、神戸女子大学にて「世界の地理・地誌学」(前期)、「世界の環境問題」(後期)の非常勤講師を務めた。2019年1月31日まで。
- 4月14日  
孟広文天津師範大学地理与環境科学学院教授が来訪し、小島と学术交流を行った。
- 5月9日  
南京大学で開催された国際シンポジウムにおいて、以下の発表が行われた。潘藝心「南京城門の視座からみる近代南京の変遷(1903—1949)」(原題「以南京城門為視座看近代南京的變遷(1903—1949)」)。
- 5月11日

## 研究室だより

- 江西師範大学で開催された国際シンポジウムにおいて、以下の発表が行われた。潘藝心「日本の外邦図からみる近代南昌の変遷」(原題「由日本外邦図看近代南昌の変遷」)。
- ・ 5月13日  
山東建築大学で開催された国際シンポジウムにおいて、以下の発表が行われた。潘藝心「済南の都市発展史(1890-1945)」(原題「済南的城市発展史(1890-1945)」)。
  - ・ 5月20日  
山村は、地域構造論1(地域空間論ⅡA)の一環として、亀岡城と城下町の巡検を企画・実施した。
  - ・ 5月25日  
山村は、文化審議会文化財分科会第三専門調査会(文化庁)に出席し、重要文化的景観の選定について審議を行った。
  - ・ 6月1日  
『地理』(古今書院)63-6に、小島「田園回帰といかに向き合うか」(14-19頁)が「特集:変わる農村と田園回帰」の冒頭文章として掲載された。
  - ・ 6月19日  
山村は、滋賀県文化財保護審議会(滋賀県)に出席した。
  - ・ 6月25日  
山村は、飛騨市の中世姉小路氏関連城館群と増島城下町に関する地籍図・絵図調査と現地踏査・指導を、飛騨市教育委員会の依頼を受けて行った。
  - ・ 6月30日  
山村は、地域構造論1(地域空間論ⅡA)の一環として、近江高島の中近世城郭と城下町(清水山城、大溝城)の巡検を企画・実施した。  
『日本建築学会計画系論文集』83巻748号に以下の論文が掲載された。齋藤駿介「仙台における建物疎開の実態と区域指定の背景—建物疎開と先行する諸計画の関係—」(1143-1153頁)。
  - ・ 7月2日  
山村は、岐阜市長良川流域の文化的景観検討委員会(岐阜市)に出席した。
  - ・ 7月9日  
山村は、岐阜県文化財保護審議会(岐阜県)に出席した。
  - ・ 7月9~13日  
黄崢々は、復旦大学・上海で開催された「地理的進化の人文痕跡」(地理演化的人文印迹)研修班に参加し、武漢大学・魯西奇教授と西南大学・藍勇教授の取材を行った。
  - ・ 7月21日  
夏目は、市川市の「行徳ふれあい伝承館オープンイベント」において開催された「スマホでまち歩きミニ」におけるWeb GISの設計協力を行った。
  - ・ 7月26日  
齋藤は四条畷学園中学校・高等学校の京都大学総合人間学部訪問において、「現代都市の景観にみる歴史」と題して研究紹介を行った。
  - ・ 8月2日  
夏目は、京都大学 ArcGIS ユーザ会と ESRI ジャパン(株)共催の ArcGIS 講習会の指導補助を行った。
  - ・ 8月4日  
京都大学で開催された、第151回人文地理学会歴史地理研究部会において、以下の発表が行われた。西村渉「『雍州府志』成立の意義について」。
  - ・ 8月6日  
山村は、二俣城跡及び鳥羽山城跡保存活用検討会(浜松市)に出席した。
  - ・ 8月7日  
山村は、岡山県立津山高校の京都大学研修に際し、「今と昔の地図を読む—津山城下町から現代の津山へ—」と題した模擬授業を行った。
  - ・ 8月8日  
小島は「大嶺村と坑頭村」と題した調査報告を小野寺淳編『中国華南の地域構造の再編に関



- する地理学的調査研究—広州調査報告—』（横浜市立大学都市社会文化研究科，36-43 頁）に掲載した。
- 8月9日  
山村は、『2018年度人間・環境学研究科公開講座 来た・見た・考えた—フィールド手帳から—』（於京都大学）において、「地図と景観から歴史を読む—京大以前の吉田を探して—」と題した講演を行った。
  - 8月9～16日  
科研プロジェクト「古道・関塞遺址調査に基づく前近代中国主要交通路の研究」（代表：辻正博教授）の一環として、中国・甘肅省の河西回廊地域で調査が行われ、小方・小島が参加した。玉門関・陽関・鎖陽城の遺跡などを現地調査した。
  - 8月12日  
無錫市政府によって開催された国際シンポジウムにおいて、以下の発表が行われた。潘藝心「無錫市における“老城区”の都市再開発に関する再考」（原題「对于無錫市“老城区”城市再開発的再思考」）。無錫テレビ，無錫日報，江南晩報などのメディアによって取材された。
  - 8月12～24日  
山村は，科研費「港町景観の近世化プロセスに関する歴史地理学研究」（基盤 C:代表・山村）によるフランス・ブルゴーニュ及びノルマンディー地方の中近世の川湊と海港について資料収集と現地調査を行った。
  - 8月15日  
紹興市政府によって開催された国際シンポジウムにおいて，以下の発表が行われた。潘藝心「長江デルタ城市群発展計画と紹興市の位置づけ」（原題「長江三角洲城市群発展計画と紹興市の定位」）。
  - 8月17日  
温州市政府によって開催された国際シンポジウムにおいて，以下の発表が行われた。潘藝心「長江デルタ城市群発展計画と温州市の位置づけ」（原題「長江三角洲城市群発展計画与温州市的定位」）。
  - 8月19日  
湖州市政府によって開催された国際シンポジウムにおいて，以下の発表が行われた。潘藝心「長江デルタ城市群発展計画と湖州市の位置づけ」（原題「長江三角洲城市群発展計画与湖州市的定位」）。
  - 夏目は，長野県千曲市において，NPO 法人オープンコンシェルジュによる「フィールド調査におけるドローン活用のノウハウ蓄積と普及教育事業」としてドローン練習会を開催した。
  - 8月28日  
山村は，滋賀県の文化財調査の一環として，元三井寺園城寺塔頭の正蔵坊庭園（大津市）の現地調査を行った。
  - 8月30日  
中国西安の陝西師範大学で開催された 2018 年中国地理学大会において，小島は「基于实地考察思考珠江三角洲農村的变化」と題する発表を行った。
  - 8月31日  
山村は，史跡岐阜城跡整備委員会（岐阜市）に出席した。
  - 9月1日  
夏目は，武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館フェローシップ（特別研修員）に採用された。
  - 9月5日  
山村は，滋賀県文化財保護審議会（滋賀県）に出席した。
  - 東北大学で開催された 2018 年度日本建築学会大会（東北）において，以下の発表が行われた。齋藤駿介「仙台における建物疎開の執行機関と実施過程—戦時期仙台における防空都市計画に関する研究（その4）—」。また，この発表によって齋藤は，2018 年度日本建築学会大会学術講演会建築歴史・意匠部門若手優秀発表賞を受賞した。
  - 9月8日

## 研究室だより

京都府立大学で開催された歴史地理学セミナーにおいて、以下の発表が行われた。藏田典子「福島原発事故における強制避難区域の変容と避難者の移動」。

### ・9月8～11日

山村は、院生とともに、仙台、石巻、塩釜、平泉・北上・盛岡の巡検を行った。

### ・9月12日

泰州市政府によって開催された国際シンポジウムにおいて、以下の発表が行われた。潘藝心「長江デルタ城市群における内部構造の可能性：錫常泰構造について」（原題「長江三角洲城市群内部結構的可能性：関于錫常泰板塊」）。

天津市政府によって開催された国際シンポジウムにおいて、以下の発表が行われた。潘藝心「“国家級新区”に対する再考：天津市濱海新区を事例に」（原題「对于“国家級新区”的再思考：以天津市濱海新区為例」）。

### ・9月17日

山村は、史跡益田氏城館遺跡群整備検討委員会（益田市）に出席した。

### ・9月18日

山村は、史跡美濃金山城跡整備委員会（可児市）に出席した。

### ・9月21日

山村は、京都橋大学文学部にて「歴史地理学」の非常勤講師を務めた。2019年1月18日まで。

### ・9月21日～10月1日

小方は、ギリシアに赴き、ギリシア古代都市を現地調査した。アテネ・エレウシス・コリント・エピダウロス・ミケーネ・オリンピア・デルファイなどを訪れた。

### ・9月23日

和歌山大学で開催された日本地理学会 2018年秋季学術大会において、小島は小野寺淳横浜国立大学教授と高橋健太郎駒澤大学教授と共同で、シンポジウム「中国改革開放40年の再考—フィールド調査の経験から—」をオーガナイズした。また小島はシンポジウム「食の人類史

からモンスーンアジアの風土を読む」において「辛い四川料理とモンスーンアジア」と題する報告を行った。

### ・9月25日

西北大学によって開催された国際シンポジウムにおいて、以下の発表が行われた。潘藝心「“国家級新区”に対する再考：西安市西鹹新区を事例に」（原題「对于“国家級新区”的再思考：以西安市西鹹新区為例」）。

### ・9月29日

山村が案内人として出演した、NHK 放送バラタモリ第113回「山形・酒田」が放映された。

### ・9月30日

『史林』第101巻5号に以下の論文が掲載された。三好志尚「中世鹿兒島の港と戦国城下町の形成」（95-115頁）。

### ・10月14日

山村は、『京都府立図書館連続講座—図書館との新たな出会い—』（京都府立図書館主催、於京都府立図書館）において、「地図と景観から歴史を読む—白河から岡崎へ—」と題した講演を行った。

### ・10月25日

小島の「大規模村落の集落と農地の空間構造」という論文が掲載された、内山雅生編『中国農村社会の歴史的展開—社会変動と新たな凝集力—』（御茶の水書房、189-197頁）が刊行された。

### ・11月5日

山村は、広島県福山市盈進中学校の大学訪問に際し、「新旧地形図にみる福山の歴史と地理」と題した模擬授業を行った。

### ・11月7日

山村は、『美しい愛知づくり講演会 2018 in 日進』（愛知県・日進市主催、於日進市民会館大ホール）において、「地図から読む日進の町・村・城・道」と題した基調講演を行った。

### ・11月10日

夏目は、市川市の「行徳 回遊展 秋」におい

- て開催された「スマホでまち歩き」における Web GIS の設計協力を行った。
- 11月15日  
山村は、『二侯城跡及び鳥羽山城跡国史跡記念シンポジウム』トークショー（浜松市主催、於天竜壬生ホール）にパネリストとして出演した。  
山村は、岐阜城跡（岐阜市）の発掘調査の現場指導を行った。
  - 11月15～20日  
科研プロジェクト「古道・関塞遺址調査に基づく前近代中国主要交通路の研究」（代表：辻正博教授）の一環として、中国・陝西省で調査が行われ、小方・小島が参加した。甘泉県秦直道や鄭国渠などを現地調査した。
  - 11月19日  
山村は、飛騨市の中世姉小路氏関連城館群と増島城下町に関する地籍図・絵図調査と現地踏査・指導を、飛騨市教育委員会の依頼を受けて行った。
  - 11月22～23日  
山村は、院生及び福井大学の門井教授とともに、越前の城下町（丸岡・福井・大野・勝山）の巡検を行った。
  - 11月24日  
人文地理学会定時社員総会・理事会において小島が人文地理学会庶務常任理事に選任された。
  - 11月24～25日  
奈良大学で行われた 2018 年人文地理学会大会において、以下の発表が行われた。小方登「衛星画像と地形モデルを利用した歴史的都市の研究—古代フェニキア・カルタゴ系の都市を事例として—」。石田曜「中国都市における余暇空間の形成過程とその特性—瀋陽市鉄西区労働公園を事例に—」。また、特別研究発表において谷口晴彦が書記を務めた。
  - 11月30日  
長島は研修員を辞退した。12月1日より愛知工業大学地域防災研究センターにポストドクトラル研究員として着任。
  - 12月2日  
山村は、地域空間論演習の一環として、伊庭及び安土城下町の巡検を企画・実施した。
  - 12月10日  
山村は、史跡美濃金山城跡整備委員会（可児市）に出席した。
  - 12月15日  
山村は、『川ものがたり講演会』（稲沢市平和支所地区まちづくり推進協議会主催、於稲沢市勤労福祉会館）において、「地図から考える濃尾平野の村・町・街道」と題した基調講演を行った。
  - 12月22日  
山村は、京都大学主催の『女子高生・車座フォーラム 2018』において、グループワークの講師を務めた。
  - 12月23日  
浙江理工大学によって開催された国際シンポジウムにおいて、以下の発表が行われた。潘藝心「下沙の開発と杭州の拡大」（原題「下沙の開発与杭州的拡大」）。
  - 12月25日  
東北大学によって開催された国際シンポジウムにおいて、以下の発表が行われた。潘藝心「都市図からみる瀋陽の都市拡大」（原題「由城市図看瀋陽的城市擴張」）。
  - 12月27日  
湖南大学によって開催された国際シンポジウムにおいて、以下の発表が行われた。潘藝心「日本の外邦図からみる近代長沙の変遷」（原題「由日本外邦図看近代長沙の変遷」）。

地域と環境 No.15 2018.12

編集・発行 「地域と環境」研究会  
京都大学大学院人間・環境学研究科  
文化・地域環境論講座 地域空間論分野  
〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町  
TEL. 075-753-2894 FAX. 075-753-7856

発行日 2018年12月28日

印刷所 株式会社 田中プリント  
TEL.075-343-0006 FAX. 075-341-4476

# Region and Environment

No.15 December 2018

---

Spatial relations between castles, towns and river ports in <i>Futamata</i> Late in the sixteenth century Aki YAMAMURA .....	1
Development and protection in rural Jiangmen Yasuo KOJIMA .....	19
Study of Punic Sites in Palermo in Sicily, Italy: Results of the research trip in August, 2017 Noboru OGATA .....	29
Characteristics of urban park as leisure space in China: A case of Renmin Park in Yanji City Yo ISHIDA .....	35
Rethinking on the inner city of China: A case of Wuxi in Jiangsu Province Yixin PAN .....	50
Formation and transformation of commercial accumulation in old industrial areas: A case study of Tiebei Area, Kuancheng District, Changchun City Tianye LIU .....	70
Place naming and its influence in Senri New Town Ryosuke KITANISHI .....	83

---

Summary of Doctor's Thesis .....	103
Summary of Master's Thesis .....	105
News .....	109

---